
運命のお相手は夢でのキスで

胡蝶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

運命のお相手は夢でのキスで

【Nコード】

N0856B

【作者名】

胡蝶

【あらすじ】

夢は所詮夢でしかない。俺はそう思っていた。それなのにある日、俺は離れたことさえないクラスメイトの女の子、泉とキスをする夢を見て…。《夢から始まる恋》

夢をみた。

ただのクラスメイトという関係しかない、泉咲和が出てくる夢だ。

俺、佐久間志岐は昔から眠りが浅い体質（？）らしく、毎晩夢を見るそれは怖いモノだったり、一時の幸せを感じるような夢だったりさまざまだ。

だから、怖かった夢も、幸せな夢も、所詮は夢だと最近では思っている。

でも、なんで？

ついさつき見た夢のあるワンシーンがずっと俺の中でまるでまき戻しの聞くビデオのように繰り返し、繰り返し、リピートを繰り返す。なんと、夢の中で俺と泉がその、つまり…キツ、キスをしていたんだ。

いや、キスをしていただけなんだ。うん、それ以外のなんでもないんだよ。

それなのに、俺はまるで何か物凄いことをしてしまったんじゃないかという考えが頭の中をぐるぐると回っている。

これはもしかして今までずっと彼女を作れず平凡極まりない人生を歩んできた俺への神様からのチャンスの信号なんじゃないのか？

俺はそんな浮かれたことを考えたまま、学校へと足を進めた。

HRの時も、もちろん授業中だって、俺の視線は泉に釘付けだった。

「佐久間くん」

「わあっ！！」

さつきまで見ていたはずの泉がいつの間にか俺の背後にいた。考え事をしている間に移動したのか？それより、授業はいつの間に終わっただんだ？

俺は泉が話しかけてきた事なんかすっかり記憶の彼方に追いやってまた頭を抱えた。

「佐久間くんっ！」

「わっあー!!」

驚きの言葉の後のリアクションを何時まで経ってもしない俺に少し拗ねたように泉はもう一度俺を呼んだ。

やば、同じ反応しちまった。

俺は自分のやらかした恥ずかしい行動を見て泉がどう出るのか、ゆっくりと泉を見た。

「…え？」

「…ふ、ははははは…佐久間くんって、面白いね」
「わらっ…た？」

そういえば、俺は泉が笑ったところも声を聞いたのも、今が初めてじゃないか？

「佐久間くんって、考え事多い人？」

目に涙を浮かべて泉は上目使いに俺を見上げる。

あ、やばい…可愛い。

「佐久間くん…また、考え事？」

そこで俺はやつと泉が心配そうに俺を見ていることに気が付いた。

「あ、いや…そんな事はない。…と、思う」

慌てた俺の返答に泉はまた微笑んだ。

「それより、さっきの私の話、聞いてた？」

「…ごめん」

「だとおもったよ。まあ、いいよ…あのね、私は…佐久間くんが…」

泉の声はだんだんと小さくなっていく。顔も少し赤い。

「…風邪か？」

おつといけない。また一人でスリップするところだったよ。

「…佐久間くんが…」

泉はさっきからその先を言えずに入る。懸命に続きを言おうとしている泉を見ると、自然と口が開いた。

「あのさあ、泉…俺、泉の事好きかもしれない」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0856b/>

運命のお相手は夢でのキスで

2010年10月13日14時50分発行